

館長室 ◆ ようこそ 25

『最初の合宿』

図書館長 古川 聡

大学に入学して間もない頃、同級生たちと学食で食事をしてた時、四国から来た女子から「富士山の見える所で合宿をしたい」と言われた。ただしお金がないから安いことが条件とのことであった。それを、なぜか場の雰囲気から私が安請け合いしてしまった。

図書館で時刻表とガイドブックを使って調べ、わずかの経験も総動員して計画を立てた。目的地は富士五湖のひとつの山中湖、7月末の2泊3日。さらにない知恵を振り絞って、交通費、宿代、食事代などすべて込みで、ひとり6,000円という超破格のツアーができあがった。安くできた工夫は、20人以上集まったので学生団体扱いにして交通費を半額にしたこと。さらに引率教員ひとり分が無料、だから私が教員役。宿は小さなバンガローを4つ借りて、男子用と女子用に分けた。食事は自炊で、スーパーで買い込んで作った。限られた予算で買って来た食材であったが、それでも地味でまじめな印象であったある女子が、料理を率先して作ってくれた。もちろん

その後、彼女は同級生男子の中で大きく株を上げた。

合宿とは言え夜遅くまでゲームをしたり、語り合ったり、多少のいざこざも起こり、時間はたりないほどで勉強するところではない。もちろん誰も勉強道具など持参していない。この3日間は、4年間を一緒に過ごす仲間が互いによくわかった貴重な時間となった。しかも予算に多少余裕が生まれたことから、少し値切って自転車を人数分借りて、全員で山中湖を一周した。富士山を背景に湖畔で写した写真が思い出の1枚になっている。

企画、予約、引率、会計、写真撮影、このすべてを私がやった。でも苦痛ではなく楽しかった。こうなると同級生たちは休みが近づくと「どこか行こう」と言い、それをきっかけに私が企画し、日光、裏磐梯、伊豆などに出かけ、こうして大学4年間は遊んで過ぎた。でも、クラス会で集まると必ずこの時の話が出てくる。幸か不幸か、この最初の合宿がその後の私たちの大学生活の方向性、加えて卒業後の私の役割をも決めてしまった。

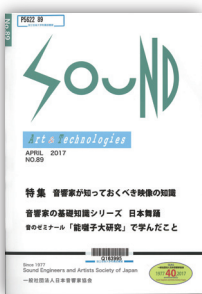
雑誌の部屋 16

「雑誌の部屋」は、当館が所蔵しているたくさんの雑誌を、もっとみなさんに手にとっていただけるよう紹介するコーナーです。

前号では図書館のリニューアル後に新たに購入した雑誌を紹介しました。今号では新たに寄贈された雑誌をご紹介します。

音楽和雑誌

Sound art & technologies 季刊



● P5622……日本音響家協会より寄贈。日本音響家協会は演劇、音楽、放送の音響を創造する芸術家と、劇場や文化ホールなどの演出空間を設計する技術者の交流、音響に関する諸問題の調査・研究を行う団体として1977年に設立。2003年4月に有限責任中間法人(非営利法人)、2008年12月から一般社団法人として活動。主な活動はプロの音響技術者の養成と資格認定、各種セミナーの開催、報酬基準の設定、仕込図記号の考案、雑誌や教科書の出版など。

紀尾井だより 隔月刊



● P5623……紀尾井ホールより寄贈。紀尾井ホール会報誌。紀尾井ホールのイベント等を紹介。最新の123号(2017年5/6月)から新連載として、さまざまなジャンルの邦楽演奏家にスポットをあてた「邦楽を究める」と、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスターのライナー・ホーネックの生い立ちから現在までをインタビューと密着取材を通して追っていく「ライナー・ホーネック物語(全6回)」の2本がスタート。